



北の空
無限の可能性

【訂正あり】

2011年度全国高校総体サッカー記録用紙【54】決勝戦

マッチインスペクター	主 審
横田 智雄	小川 直仁

日 時	平成23年8月3日(水)10:02	試合形式	70分 延長20分 PK戦	会 場	八橋運動公園陸上競技場(秋田市)				
天 候	晴れ	気温	30℃	湿度	69%	風	弱	ピッチ状態	観客数
マッチインスペクター	横田 智雄	副審1	細尾 基	第4の審判員	塚田 智宏	天然芝	全面良芝	2100人	
主 審	小川 直仁	副審2	西橋 勲	記録担当	佐藤文明・高橋和也	表 面	乾燥		

校 名	都道府県	0	前半	1	校 名	都道府県
桐蔭学園	神奈川	2	後半	0	静岡学園	静岡
			延 前			
			延 後			
Kick off						

No	PK方式	No
○×	0 0	○×

交代 番号	時間	シュート				得点	学 年	選 手 名	番 号	位 置	位 置	番 号	選 手 名	学 年	得点	シュート				交代 時間	番号		
		延前	延後	後半	前半											前半	後半	延前	延後				
						2	境 龍登	1	GK	GK	①	福島 春樹	3										
					1	3	内嶺 大輝	②	DF	DF	14	伊藤 翼	2										
			1			2	富澤 右京	3	DF	DF	3	望月 大知	2										
						3	金子 雄祐	5	DF	DF	4	木本 恭生	3										
						3	山本 有一	13	DF	DF	5	手塚 朋克	1										
						3	進藤 圭介	10	MF	MF	6	柴田 則幸	2										
						3	西谷 耀	14	MF	MF	8	大村 颯士	2										
			2	1		3	山田 和輝	7	MF	MF	16	望月 瞬	3										42
41				1		3	小形 聡司	8	MF	MF	10	渡辺 隼	2	1	1								
					1	3	市村 一貴	6	FW	FW	12	米田 隼也	1										44
			1	1		3	角宮 健介	11	FW	FW	9	深瀬 健也	2										
						3	吉田 拓平	17	GK	GK	17	亀川 雅人	3										
						3	森 正和	4	DF	DF	2	望月 遥伊	3										
8						3	水島 圭喬	9	FW	MF	7	木村 悠貴	3										
						3	廣瀬 輝	12	MF	FW	11	山本 真也	3										12
						2	渋谷 勇太郎	16	MF	FW	13	野田 侑成	3										16
						1	片岡 立綺	15	MF	DF	15	吉田 蒼一郎	2										
			8		1	小計	9					1	小計	1									

警退時間	No	氏 名	内 容	計	延長	後半	前半	シュート合計		前半	後半	延長	計	警退時間	No	氏 名	内 容
				4		2	2	G	K	3	6		9				
				8		2	6	C	K	2			2				
				10		4	6	直接FK		5	6		11				
				13		1	2	間接FK					0				
				3				P K					0				
				0									0				

得点経過 (凡例: ~ドリブル、→ゴロのパス、↑浮球のパス、×混戦、Sシュート、Hヘディング)

時間	チーム名	No.	得点者	No.	アシスト	得点経過											
12	静岡学園	10	渡辺 隼	8	大村 颯士	右CK	10	→	右1	8	→	中央1	10	S			
42	桐蔭学園	6	市村 一貴			中央1	×	6	S								
66	桐蔭学園	11	角宮 健介	7	山田 和輝	左1	FK	7	↑	中央1	13	H↑	中央1	11	HS		
				13	山本 有一												

【戦評】 記者者 北川 昌紀 (三重県立いなべ総合学園 高等学校)

前半、両チームともにDFラインからのビルドアップで攻撃を組み立てる。静学はMFと3トップが流動的にポジションチェンジをしながらゴールに迫る。MF⑩渡辺はビルドアップからチャンスメイクし攻撃の起点となる。守備ではCB④木本を中心にゴール前での粘り強い対応で得点を許さない。桐蔭は、静学の中盤にできたギャップを突きながら、バイタルエリアにタイミングよく入る2トップへの楔にポランチが素早くサポートし両サイドへ展開。右MF⑧小形の個人技、左SB③富澤のスピード突破でゴールに迫る。後半、桐蔭は素早い攻守の切り替えとドリブルとショートパスでの迫力ある中央突破でチャンスを作り試合の主導権を握る。また、両CBを中心とした安定した守備で静学に攻撃の起点を作らせない。静学は、反撃に出たいが運動量が落ちパスの精度も悪くチャンスを作れない。バイタルエリアの攻略、素早い攻守の切り替え、安定した守備と持ち味を存分に発揮した桐蔭が見事優勝を飾った。